

## 令和 6 年度ブロック会議 大会宣言等

令和 6 年度ブロック会議は 8 月末日時点で 6 地域において開催され、そのうち次の 4 地域において大会宣言、大会決議等が採択されました。

採択された内容については以下の通りです。

- (1) 7 月 26 日 (金) 開催 中国ブロック会議
- (2) 7 月 26 日 (金) 開催 九州ブロック会議
- (3) 8 月 21 日 (水) 開催 北関東信越ブロック会議
- (4) 8 月 28 日 (水) 開催 中部ブロック会議

## (1) 7月26日(金)開催

中国ブロック会議 【会場】島根県；ホテル一畑

### 【大会決議】

未曾有の出来事が収束したものの、全ての事柄がコロナ禍以前に戻ったというよりは、人々に新たな価値観が生まれたと感じています。こうした社会状況に加え、急速な少子高齢化とともに生産年齢人口の減少、いわゆる人手不足が都市圏のみならず地方にも進んでおり、外国人材、地域産業の担い手など人的資源の安定的な確保も急務となっています。また、生成AIのさらなる進化、デジタルトランスフォーメーションなどに伴う社会の変化により、個々に求められる能力も新しい時代に対応したものになりつつあります。

職業教育の担い手としての専修学校各種学校も例外ではなく、様々な試行錯誤と苦難の連続ではありましたが、学生、生徒の「学びの機会の確保」と産業界への「人材の輩出」という使命を果たすべく、教職員一丸となって学校運営にあたってまいりました。こうした真摯な取り組みに呼応するように、国からの様々な支援策が専修学校各種学校に対しても講じられました。これらは学校評価や情報公開への対応や人材育成の実績に対する社会からの評価が裏付けにあると言えるでしょう。具体的には、専修学校となるために最低限必要な学習時間に関する基準を、大学と同等に「単位数」として定める事や、専修学校専門課程の在籍者の呼称を「生徒」から「学生」に改めるなどの学校教育法の一部改正が予定されており、大学・短大と同等に近づこうとしています。

一方でこの改正には、「専門課程を置く専修学校に大学と同等の項目での自己点検評価を義務付けるとともに、外部の識見を有する者による評価を受ける努力義務を定める。」などの社会から信頼を得るとともに、高等教育機関としての責任を果たす必要不可欠な項目も含まれています。しかし、いわゆる第三者評価には莫大な費用と労力を有し、中小規模を含む専修学校では大きな負担になることは容易に推測されるところです。

こうした制度面で大学・短大に近づく一方で、専修学校への進学を名実ともに高等教育機関への進学率に加算されていない一部地域も存在し、また、経常費補助が皆無または不十分な都道府県も存在します。未来の地域を支える若ものに、進学先の制度上の違いだけで国や地域行政からの支援が異なることはあってはならないと考えております。

このような社会情勢の中、専修学校各種学校は引き続き社会的要請に応えるべく、職業教育機関として、また生涯学習機関として努力を継続していかなければなりません。

これらの案件の実現のために努力することをここで決議するものであります。

### (決議事項)

1. 「激甚法」をはじめとした学校教育法第一条の学校と制度上の格差が存在するものについては、国に対して専修学校各種学校も対象となるよう早期の法改正を要望する。
2. 地域人材の育成機関である専修学校各種学校への公的助成の新規創設及び拡充を求める。特に職業実践専門課程認定校への助成、高等専修学校生への授業料減免措置、授業目的公衆送信補償金制度への支援など地方財政措置が講じられているものについては、各県に対して早期の対応を要望する。

3. 公立の職業訓練施設において、本来の「求職・離職・転職・在職者のための職業訓練施設」という目的に沿った募集活動を行うことを要望する。

## (2) 7月26日(金)開催

九州ブロック会議 【会場】鹿児島県；鹿児島サンロイヤルホテル

### 【大会決議】

近年、産業や社会構造の変化・グローバル化等が進む中で、経済社会の一層の発展を期するためには、雇用拡大や人材移動とともに個人の可能性を最大限に発揮し、地域産業の中核となる人材を養成することが必要となっています。

こうした中、専修学校各種学校においては、学びの質を高め、キャリア意識、専門知識を涵養できる人材の育成に努めてまいります。

本日、この九州ブロック大会において、下記事項を行政当局及び全国専修学校各種学校総連合会に対して強く要望するとともに、併せてそれぞれの九州ブロック内の各会員校が自らの課題解決に取り組み、社会的責任を果たしていくことをここに宣言します。

### 記

## 1 国、県等の行政機関への要望

- (1) 「職業実践専門課程」を通じた専修学校振興に対する、より一層の支援拡充を求める。
- (2) 高等教育の就学支援制度における授業料減免制度の拡充を強く求める。
- (3) 外国人留学生の専修学校・各種学校への留学支援と卒業後の定着支援のため、在留資格の付与や範囲の拡大などを求める。
- (4) 高等専修学校は、後期中等教育機関の役割を担っており、その教育振興に資するためにも高等学校との様々な格差是正を求める。
- (5) 大規模災害に際して、被災した専修学校及び各種学校に対し、一条校と同様の措置が講じられるように、激震災害法の改正を求める。

## 2 九州ブロック内の各会員校の社会的責務の遂行に向けて

- (1) 各学校が教育の質保証・情報公開・法令遵守等に真摯に取り組み、公的な教育機関としての説明責任を果たしていく。
- (2) 実践的な職業教育機関として、若年者や離職者の雇用対策の一翼を担うとともに社会人の学び直しとして、広く活用されるよう地域社会に積極的に貢献する。
- (3) アジアに近接した九州ブロックの地理的特性を活かし、国際社会で活躍し、我が国の将来に貢献できる視点をもった人材の育成と先見性に富む学校経営に心がける。
- (4) 高等専修学校においては、小中学校で「不登校」を経験した生徒や発達障がいの生徒のための適切な受け入れ及び進路指導に関する教育力の向上を目指す。

### (3) 8月21日(水)開催

北関東信越ブロック会議 【会場】新潟県；ホテルイタリア軒

#### 【大会決議】

A I 技術の進展は急速であり、教育界においてもその影響は顕著である。

人生 100 年時代やデジタル社会の進展の中で、職業に結び付く実践的な知識・技能・技術や資格の取得に向けて、リスキリング・リカレント教育を含めた職業教育の重要性が高まっている。専修学校および各種学校は、実践的な職業教育を通じて社会に有為な人材を輩出しており、A I 技術を活用することで、さらに質の高い教育を提供することが求められている。これらの支援策としてA I 時代に即した高品質な教育の推進を加速させ、我が国の教育水準を世界的に競争力のあるレベルへと引き上げることを目指し、社会に貢献できるかを探求する。あわせて、国際化推進事業と外国人留学生キャリア形成促進プログラムの運用、高度外国人材の定着率の向上を目指し、企業と連携した環境整備を行うことも確認された、また、若者の多様な学びに対応し受け入れている高等専修学校への支援強化も必要である。さらに、持続可能な社会に貢献できる人材を育成するため、環境問題に触れる機会を提供することも重要である。

以下の大会決議は、これらの議論の成果を基に策定され、具体的な取り組みを推進するための指針とする。

#### 記

1. A I 教育の推進として、基礎から応用までを網羅するカリキュラム開発と教職員のA I 教育スキル向上の研修を推進する。学校運営の効率化と教育の質向上のため、A I ツールの活用促進と、学習進捗や満足度データ分析による教育改善を図る。
2. 持続可能な社会に向けた教育として、学生が環境問題に取り組む機会を提供し、持続可能な社会に貢献できる人材を育成する。
3. 後期中等教育機関であり、高等学校の枠に収まらない多様な教育を行っている高等専修学校の役割は大きく、その教育振興に資するためにも高等学校との格差是正を要する。
4. 社会人の学び直し機会の提供として、リスキリングプログラムで最新技術を習得できるキャリア再構築の体制づくりと新たな職業機会を支援する。
5. 留学生の戦略的な受け入れと支援として、円滑な就職および定着に向けた支援や日本語教育の強化を行う。異文化理解教育や海外研修を通じ、国際的ビジネススキルを醸成するカリキュラムを導入し、専門学校の国際化とグローバル人材を育成する。

#### (4) 8月28日(水)開催

中部ブロック会議 【会場】福井県；コートヤード・バイ・マリオット福井

#### 中部七県ブロック協議会第68回定期大会

#### 【大会決議】

大会スローガン～新時代の専各学校のあり方 VUCA時代の専各学校を探究する～

現在は、全く予期していなかった新型コロナウイルス感染症やロシアのウクライナ侵攻などが起こる、まさに先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCA時代(\*1)です。また、脱炭素化の潮流、生成AIをはじめとしたデジタル技術の急速な発達により、Society5.0(\*2)の時代を迎えつつあり、これまでの産業社会構造が抜本的に変革するだけではなく、労働需要のあり方にも根源的な変化をもたらすことが予想され、特に「問題発見力」や「的確な予測」「革新性」等が求められる職種では労働需要が増加すると推計されており、労働市場のあり方や働く人に必要とされるスキルも今後変容していくことが見通されています。

そのような中、産業界に人材を輩出する専各学校の学びも変化せざるをえません。

私たち専各学校たる専門教育機関は、時代の変化を機敏に察知し、必要とされる具体的な人材スキルや能力を把握し、シグナルとして発することができているか、時代が求める人材育成を行うことができているのが課題であり、どのような社会であっても、力強く未来を切り拓いていける能力とは何かを探究し、その育成を実現することが求められています。

個性や能力を活かしつつ予測困難な未来を担う人材、持続可能な社会の創り手の育成。そのために、人を大切にする学校経営のもと、変化を加速させるカリキュラムの刷新、取り残されない学び、そして、社会に根ざしたウェルビーイングの向上と実現に向けた専各学校教育の推進を図ります。

変動する新時代に向けて

- ・専各学校の役割(学び)の探究
- ・社会に必要なスキルの見極め
- ・社会人のためのスキル転換やキャリアアップのための学び直しの場の提供
- ・知識の習得・技術の体得および、探究力の育成を、多様な他者(産学・官学・学学連携)と協働で行う場の提供

これらの教育システムを学校だけでなく、地域社会・産業とともに構築していくことが大切と考え、職業に必要な専門的かつ実践的な能力の育成の中で、主体的に職業に関する課題を見出し、自己または多様な他者と協働しながら解決していく探究的な学びを充実させ、社会課題の解決とイノベーションを結び付けて成長を生み出す人材の育成を目指していきましょう。

「探究」とは

物事の真価・価値・在り方などを深く考えて、すじ道をたどって明らかにすること(三省堂『大辞林』より)

\*1: VUCA時代=(Volatility 変動性・Uncertainty 不確実性・Complexity 複雑性・Ambiguity 曖昧性)

\*2 : Society5.0 = (サイバー空間とフィジカル空間が融合した社会)  
探究 ≠ 探求